

韓国国立中央図書館（National Library of Korea）、 韓国国立デジタル図書館（dibrary）への訪問調査について

中村美里

1.概要

- ・来訪日時：2015年1月16日 10:00～12:10【午前】，14:00～15:45【午後】
- ・場 所：韓国国立中央図書館 古典籍運営室 *11:10～12:10 dibrary視察
- ・韓国NLK側参加者：
 - 【午前】 古典籍運営室……奉成奇 室長、安恵璟 古書専門員
 - 【午後】 古典籍運営室……奉成奇 室長、安恵璟 古書専門員
デジタル企画課……カクスヨン氏（司書）
図書館研究所……チョンジヨン氏（学芸研究士）
- ・研究会メンバー（国文学研究資料館）…山本副センター長、金田特任准教授、井黒特任助教、片岡プロジェクト研究員、増井副室長、中村古典籍データベース係長、金銀貞氏（通訳）

2.目的

デジタル化が進んでいる韓国において、デジタルコンテンツを管理するためのコードはどのように付与されているのか、またDOIへの対応状況などについての実態を把握するため、韓国への訪問調査を実施した。調査対象機関としては、国立の図書館であり古典籍運営室も設置されていること、またデジタルコンテンツに特化した図書館（dibrary）を併設していることから、韓国国立中央図書館を選び、古典籍資料およびデジタルコンテンツの担当者と意見交換を行った。

3.当日のスケジュール

午前中に古典籍運営室の奉成奇室長、安恵璟古書専門員と主に古典籍資料のデジタル化について意見交換を行った。その後、dibraryの施設見学を行った。午後は古典籍運営室の両名と、デジタルコンテンツ・データベースを担当しているカクスヨン氏、チョンジヨン氏も交えて韓国における画像へのコード付与状況について意見交換を行った。

4.意見交換の概要

（画像コードについて）

- ・DOIは今のところ付与していない。導入の目途も今のところない。当館内に国家書誌課があり、今後そこがどういう検討をするかも不明。
- ・基本的に、資料の識別にはISBNやISSNを使っている。
- ・UCI（Universal Content Identifier）も用いている。永久的識別子という意味ではUCIが該当する。

(資料のデジタル化について)

- ・NLKのデジタル化担当部署では、所蔵資料のデジタル化全般を担当。古典籍運営室は所蔵資料以外のもの、国内外の他機関に所蔵されている資料のデジタル化を担当。
- ・撮影は基本的に外部業者に委託。館内撮影、現地（所蔵機関）での撮影、両方を行っている。
- ・古典籍資料の撮影は、オーバーヘッドスキャナを使用しているが、場合によってデジタルカメラも使用している。
- ・解像度は、一般的資料の保存用は300dpi、古典籍など特別資料の保存用は400dpi。公開用はどちらも150dpi。形式はjpeg。以前撮影した解像度の低いものについて、今のところ再撮影は予定していない。
- ・NLKのデジタル化について、「原則として、発行されて5年が経過した単行本」をデジタル化している。そのほか、「所蔵がNLK唯一の資料」「貴重書」「韓国に関係する資料」「劣化等で状態が良くない資料」などを優先。各担当部署のリクエストに応じることもある。
- ・デジタル化対象外のものは3種類あり、(1)試験や受験と関係あるもの、(2)辞書の類、(3)他機関で既にデジタル化されているもの、である。
- ・デジタル化に関する外部資金、寄付金の獲得は今のところ無い。
- ・画像のイメージ検索は行っていない。将来的にはそのような技術開発もあるかもしれないが、今のところは実装はしていない。

5.訪問を終えて

デジタル化が進んでいる韓国において、DOI導入がまだ積極的に検討されていないことはやや意外であったが、資料とくに古典籍のデジタル化について非常に有意義な意見交換を行うことができた。これを機に、資料のデジタル化、コード付与等についてはもちろん、様々な取組について情報交換、連携ができればと考えている。



dibrary館内



打合せ室にて

今回の訪問調査に際し、ご多忙の中、午前・午後ともにお時間を割いて下さった奉成奇室長、また質問事項の事前確認・翻訳など様々な準備をしていただいた安恵璟氏をはじめ、韓国国立中央図書館の皆さまに深謝申し上げます。